演目を 全て知り足る 後見(こうけん)に
切れなむ糸の 縁(えにし)安かれ

令和六年九月二十八日

大中臣正比呂

能舞台を起源とする「後見」の役目は、長唄の演奏会でも気になるところだろう。演奏者は半眼の体で、どうして観客と目を合せないのとかと、横の彼女に聞かれたが、筆者も知らない。元々、舞台の後方で臨場感を出すのが役目で、役者や舞手を引き立てる役目だからであろう。
長唄演奏会は演奏が中心で、手さばき、撥さばきとともに「音」で聴衆を酔わせる。禅の無心のごとく奏でる音を、目を閉じて聞いても心地よい。